

修 士 論 文

題 目 修論・卒論作成の手引き

指導教官 佐藤 理史 助教授

京都大学大学院情報学研究科 知能情報学専攻

氏 名 土屋 雅稔

平成 16 年 1 月 21 日

目次

第1章	はじめに	1
第2章	修論・卒論スタイル使用の手引	2
2.1	インストール	2
2.2	ドキュメントスタイル	2
2.3	文字数，行数の設定	2
2.4	表紙	3
2.5	目次	3
2.6	本文	3
2.6.1	章題	4
2.6.2	脚注	4
2.6.3	図表	4
2.7	謝辞	5
2.8	参考文献	5
2.9	付録	5
第3章	おわりに	6
	謝辞	7
	参考文献	8
	付録A レイアウト・パラメータ	9

第1章 はじめに

これは，京都大学電気電子工学科の修論・卒論作成用 $\text{\LaTeX}2\text{e}$ クラスファイルの使用の手引です．

電気系学科の修論・卒論作成には，傳康晴さんによって作成された $\text{\LaTeX}209$ 用スタイルファイル `kueethesis.sty` が 10 年以上に渡って使用されてきました¹⁾．この配布キットに含まれているクラスファイル `kuee.cls` は，`kueethesis.sty` を $\text{\LaTeX}2\text{e}$ 用に移植し，更に幾つかの改良を加えたものです．

また，この配布キットに同梱されている文献用スタイルファイル `kueethesis.bst` は，傳康晴さんによって作成されたものです．

第2章 修論・卒論スタイル使用の手引

2.1 インストール

配布キットには、表 2.1 のファイルが含まれています。

このクラスファイルを使用するため、`kuee.cls` と `kueethesis.bst` を、環境変数 `TEXINPUTS` で指定されたディレクトリ、または修論・卒論の原稿と同じディレクトリにコピーして下さい。なお、この配布キットのクラスファイルは NTT \jTeX および ASCII $p\TeX$ の両方に共通して使用することができます。

2.2 ドキュメントスタイル

ドキュメントスタイルは、オプションとして指定します。修論の場合は `shuuron`、卒論の場合は `sotsuron` を用います。例えば、卒論の場合は次のように指定して下さい。

```
\documentclass[sotsuron]{kuee}
```

指定を省略すると、修論用のスタイルが選択されます。

2.3 文字数、行数の設定

1行の文字数と1ページの行数を指定する場合は、`\begin{document}` より先に次のように指定します。これは、デフォルトと同じ1行36文字、1ページ32行の設定例です。

```
\charsinline{36}  
\linesinpage{32}
```

ただし、 \TeX のページ分割のためにすべてのページが必ずしも設定通りの行数にはなりません。ASCII \jTeX では句読点のカーニングの伸縮のため、すべての行が必ずしも設定通りの文字数にはなりません。なお、1行の文字数は NTT \jTeX で

は最大 38 文字，ASCII $\text{jT}_{\text{E}}\text{X}$ では最大 37 文字で，これを越えると隣合う文字同士が重なってしまいます．

2.4 表紙

表紙は `\maketitle` コマンドによって出力されます*．

表紙を出力するコマンド `\maketitle` よりも先に，タイトル，著者などを次のように指定する必要があります．

```
\title{修論・卒論作成の手引き}
\author{土屋 雅稔}
\professor{佐藤 理史 助教授}
\department{電気電子工学科}
\date{平成 13 年 12 月 18 日}
```

`\professor` コマンドは指導教官を，`\department` コマンドは専攻/学科を指定するのに用います．指定が省略された場合は，電気工学専攻/電気電子工学科が指定されたと見なされます．また，`\course` コマンドを用いると，デフォルトの研究科/学部 (京都大学大学院工学研究科/京都大学工学部) を変更できます．

2.5 目次

目次は `\tableofcontents` コマンドによって出力されます†．謝辞，参考文献，付録なども目次に掲載されます．

2.6 本文

本文は通常の $\text{L}_{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ のテキストとして記述します‡．いくつかの点で `j-report/jreport/report` スタイルとの違いがあります．

* 表紙ページのページ番号は 0 ですが，出力されません．

† 目次ページのページ番号は 1 から始まり，ローマ数字で出力されます．

‡ 本文ページのページ番号は 1 から始まり，アラビア数字で出力されます．

2.6.1 章題

章題は次のように出力されます。

第 3 章 修論・卒論クラスにおける章題

章題が 1 行に収まり切らない場合には次のように改行されて出力されます。

第 3 章 修論・卒論クラスにおける 1 行に収まり切らないような長い章題

2.6.2 脚注

脚注は章ごとにカウントされ，マークは `*`，`**`，`***`，`†`，`††`，`†††`，`‡`，`‡‡`，`‡‡‡`，`§`，`§§`，`§§§`，`¶`，`¶¶`，`¶¶¶`，`⋮` のようになります。

2.6.3 図表

通常の \LaTeX を利用する場合と同様，本文中の適当な場所に記述して下さい。全ての図表は， \TeX によって自動的に論文の末尾に移動されます。例えば，図 2.1 は，この段落の直後で定義されていますが，実際の整形結果では論文末尾に移動しているはずで

大量の図表を張り付けると，以下のようなエラーが発生することがあります。

```
! LaTeX Error: Too many unprocessed floats.
```

\LaTeX が図表を組み版する時は，前後の文章の量を見ながらオプションで指定された条件に合う場所が出てくるまでメモリーに図表を保存しています。上記エラーは，図表が数ページにわたって連続して現われ，メモリーが不足すると発生します。このエラーが発生した時は，適当な位置に `\clearfigurepage` コマンドを挿入してください。このコマンドは，図表ページを指定された個所で強制的に分割し，組版処理を行うように指示します。

なお，この図表の定義場所に関する点が， $\text{\LaTeX}209$ 用に配布されていた従来の `kueethesis.sty` から最も大きく異なっています。従来版では，`\figureandtable` と `\figureandtableof` の 2 つのコマンドを利用して，手作業で論文末尾に図表

を記述する必要がありました。互換性を保つため、これらのコマンドは一応定義されていますが、出力に矛盾を生じる可能性がありますので、決して使用しないで下さい。研究室の先輩の原稿などを参考にして作業している場合は、特に注意して下さい。

2.7 謝辞

謝辞は、`acknowledgements` 環境を用いて記述します。

2.8 参考文献

この節は 2006 年 2 月 15 日、土谷 亮[§] によって加筆・修正されました。

参考文献は `thebibliography` 環境を用いて直接記述するか、`jBIBTEX` システムを用いて作成することができます[¶]。参考文献のラベルは `[1]` のように出力されます。引用も同様に `[1]` のように出力されます。

2005 年度の卒論・修論までは文献のラベルは `(1)`、引用は `(1)` のようになっていましたが、2006 年度から上記のように変更されました。旧バージョンと同じ出力を得るためには、`\citeleft`、`\citeright` を以下のように変更し、`\cite` の代わりに `\Cite` を使用してください。

```
\renewcommand\citeleft{}
\renewcommand\citeright{}
```

`\citeleft`、`\citeright` はそれぞれ文献のラベルの左カッコ、右カッコです。`\Cite` は引用を上付きにする命令です。

2.9 付録

付録は `\appendix` コマンドの後に記述します^{||}。付録の各項目は `\chapter` コマンドによって分割して記述します。付録がただ 1 項目からなる場合にも項目の始めに `\chapter` コマンドを用いて項目名を指定して下さい。

[§] 通信情報システム専攻 小野寺研, tsuchiya@vlsi.kuee.kyoto-u.ac.jp

[¶] (J)BIBTEX の使い方については L^AT_EX ブック²⁾ の付録 B などを参照。

^{||} 付録ページのページ番号は本文から継続し、アラビア数字で出力されます。

第3章 おわりに

旧版の利用説明書には，次のように書かれていました．

京大電気系学科の修論・卒論に \LaTeX が使われ出して 4 年目になります．最初のころは PC98 上のアスキー日本語 \MicroTeX を使ってちんたらやっていたものですが，最近では Unix マシンおよび Unix 上の \NTTjTeX , \ASCIIjTeX が広く普及し，修論・卒論を \LaTeX で書こうという人はかなり多くなっているものと思います．

現在では，普通のパソコンでも \LaTeX が利用できるようになり， \LaTeX の導入自体は以前よりも容易になりました．しかし， \LaTeX の持つ論理マークアップという考え方になじめず，Microsoft Word など修論・卒論を作成する人が増えてきているようです．そのような状況下において，このクラスファイルがどれだけ役に立つかわかりませんが，少しでも役に立つものであることを願っています．

謝 辞

オリジナルの L^AT_EX209 用スタイルファイル `kueethesis.sty` の配布キットを作成された, 傳康晴さんに感謝します.

図表を論文の末尾に移動する方法について, `endfloat.sty` を参考にさせて頂きました. 筆者の James Darrell McCauley さんに感謝します. また, 改造方法について T_EX FAQ 掲示板でアドバイスをくださった `misc` さんに感謝します.

このスタイルの初期の版から現在の版に至るまで, 各年度の長尾研究室 (現・言語メディア研究室) をはじめ多くの研究室の人たちに使っていただき, 数々の改良を重ねることができました. 関係者各位に感謝します.

参考文献

- 1) 傳康晴, 修論・卒論作成の手引き, (1991年11月25日版).
- 2) Leslie Lamport, *TEX: A Document Preparation System*, (Addison-Wesley, 1986), (邦訳: 『文書処理システム TEX』 Edgar Cooke, 倉沢良一 監訳, 大野俊治, 小暮博道, 藤浦はる美 訳, アスキー, 1990年).

付 録 A レイアウト・パラメータ

デフォルトで利用される本文ページ，図・表ページのレイアウト・パラメータはそれぞれ表 A.1,A.2 のようになっています．

表 2.1: 配布キットのファイル一覧

<code>kuee.cls</code>	修論・卒論用 $\text{\LaTeX}2\text{e}$ クラスファイル
<code>kueethesis.bst</code>	修論・卒論用 $\text{jBIB}\text{\TeX}$ 文献スタイルファイル
<code>sample.tex</code>	使用の手引 (このドキュメント) を作るファイル
<code>sample.bib</code>	使用の手引の参考文献を収めたファイル

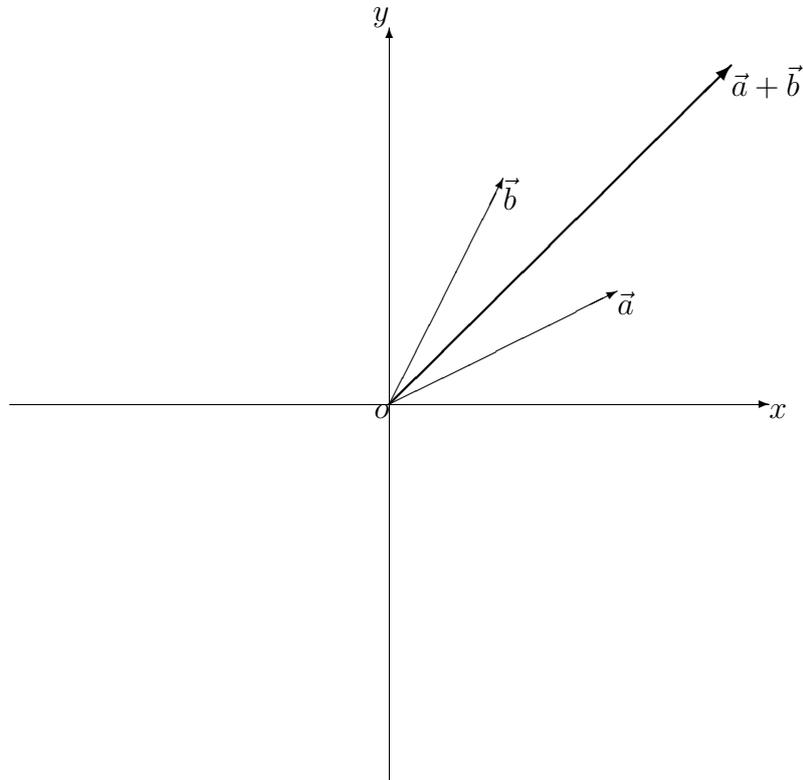


図 2.1: figure 環境の例

表 A.1: 本文ページのデフォルト・レイアウト

<code>\textwidth</code>	424pt
<code>\textheight</code>	604pt
<code>\oddsidemargin</code>	0.5cm
<code>\evensidemargin</code>	0.5cm
<code>\topmargin</code>	0pt
<code>\headheight</code>	12pt
<code>\headsep</code>	25pt
<code>\footskip</code>	30pt

表 A.2: 図・表ページのデフォルト・レイアウト

<code>\textwidth</code>	424pt + 1cm
<code>\textheight</code>	604pt + 67pt
<code>\oddsidemargin</code>	0pt
<code>\evensidemargin</code>	0pt
<code>\topmargin</code>	0pt
<code>\headheight</code>	0pt
<code>\headsep</code>	0pt
<code>\footskip</code>	0pt